

MM21に新複合施設



開発される地区のイメージ図（横浜市提供）

28年以降完成

開発グループ選定

横浜市は、みなとみらい21地区の音楽専用施設「Kアリーナ横浜」に隣接する市有地の開発事業予定者として、不動産会社「ケン・

コーポレーション」（東京都）など4業者でつくる企業グループを選定した。高さ100以上のオフィスビルやホテル、ミュージアム、専門学校からなる複合施設が誕生する見通しで、2028年8月から順次完成予定だ。

開発が決まったのは、みなとみらい60・61街区（計2万3000平方メートル）で、残っていた大規模市有地で「ラストピース」とされてきた。地区全体で開発の進捗率は99%となる。

市は公募の結果、Kアリーナなどからなる複合施設「ミュージックテラス」を手がけたケン・コーポレ

ーションを主体とし、不動産関連業「SMFLみらいパートナーズ」（東京都）、鹿島建設（東京都）、岩崎学園（横浜市）でつくるグループに220億4100万円で売却することを決めた。

計画では「リンケージテラス」の名称で、東側に



地上27階ホテルと21階オフィス、ミュージアム、西側に13階専門学校がそれぞれ建設され、間には低層の商業施設が設けられる。ミュージックテラスとはデッキで接続して一体感を生む。

26年3月に着工し、専門学校は28年8月、29年2月に全体が完成する予定という。

ケン・コーポレーションの担当者は「既存施設とも連携し、多様な人の流れを醸成したい」としている。

※計画概要・イメージパースは事業提案時のものであり、今後、変更する可能性があります。